

令和 5 年度事業計画（案）

新型コロナウイルス感染症感染防止対策の取扱いが改められたことから、社会全体としてポストコロナ（ウィズコロナ）による活動再開と活発化の動きが広がりを見せている。

最上川フォーラムにおいても、新たな連携の提案が持ち込まれているほか、海と日本プロジェクトやスポGOMI大会など、全国規模の取組み展開が予定されている。

こうした動きを捉えるとともに、海洋プラスチックやマイクロプラスチックの問題への関心が高まっており、企業や学校におけるSDGsの取組みが広がっていることなどを背景として、他団体や企業、学校、マスメディア等との連携を積極的に進めていく。

また、令和4年度に取りまとめた「新しい活動指針（案）」の推進方向は堅持していくものの、運営基盤の強化を目的として検討してきた法人移行については断念したことから、会員拡大や支援獲得並びに収支改善、広報の強化など当面取り組むべき課題を洗い出し、できるところから実行していく。

将来を担う世代の育成《教育・啓発》

1 身近な川や水辺の健康診断（別添募集チラシ参照）**(1) 実施期間**

世界環境デーに合わせ6月3日～11日の原則の実施期間は設けるものの、新型コロナウイルス感染症や天候不順などの状況に対応して、10月20日までとし、安全に実施できるよう期間を延長。

(2) 参加申し込みは、原則の調査期間に合わせ、5月19日の締め切りを設けるが、実施期間中随時申し込みを受け付ける。**(3) 実施検討会を4月18日に開催し、実施体制など詳細について検討・決定する。**

参加者は例年同様に国・県の関係行政機関、地域部会、大学、地域で環境保全活動に携わっている方々。Web参加も可能とし開催。

(4) 調査補助指導者の派遣

新規参加者や学校などで参加する場合に、要望があれば、地域部会や会員専門機関に協力をいただき、事前講習や現地調査補助を積極的に行う。

(5) 水生生物調査

主催の山形県環境科学研究センターと連携し、希望グループについては、「身近な川や水辺の健康診断」との同時申込可能として募集する。

(6) 透視度計

例年同様、各地域の貸出担当者に協力をいただき、参加者からの申し込みにより貸し出す。

(7) CODについては、国土交通省と市民団体が連携して実施する「身近な水環境の全国一斉調査」の一環として50地点分の器材の提供を受け、調査結果50地点分を提出予定。**(8) 調査結果集計は引き続き、公益社団法人山形県水質保全協会の協力を得て「水辺診断書」としてレーダーチャートを作成する。**

2 スポGOMI大会の開催（別紙1参照）

（山形県循環型社会推進課委託事業含む）

海岸漂着物問題対策の普及啓発の一環として、市町村や地域の団体等と連携して開催する。

スポGOMI大会と啓発資材の活用やワークショップ等と組み合わせることにより、SDGsの取組み、企業のCSR活動、学校や団体、企業が行う環境ツアーとして、環境教育プログラムを提案する。

（企業や団体との連携）

スポGOMI大会等へのボランティア参加、運営参画を推進する。

海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、ゆらまちつく戦略会議、(株)安藤・間、三郷堰土地改良区、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡、NPO法人パートナーシップオフィス、(株)JTBなど

3 海岸漂着物やマイクロプラスチック問題等の啓発（別紙2、3参照）

(1) 海岸漂着物問題普及啓発出前講座（山形県循環型社会推進課委託事業含む）

「身近な川や水辺の健康診断」等の実施と併せ、小中学生等に対して出前講座を実施する。

(2) ゴミ回収体験やパネルやゴミ標本を活用した環境教育プログラムの推進

環境教育のためのゴミ標本や資材、オンラインやYouTubeを活用した啓発、啓発資材の貸出し、出張やオンラインでの説明を行う。

マルシェ、研修会等でのワークショップ、回収体験等の開催。

スポGOMI大会、クリーンアップや水辺の健康診断等との組み合わせによる環境教育プログラムを提案する。

(3) 海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、海と日本プロジェクトとの連携

連携協力事業例 スポGOMI甲子園、スポGOMIワールドカップ、山形の海洋ごみを考える日など。そのほか、SNSや動画を活用した啓発を行う。

(4) ホームページ「最上川環境マップ」の整備

4 報告書「笑顔を写す山形の川」

(1) 「身近な川や水辺の健康診断」、「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」の結果報告を作成し、ホームページにデジタルブックとして掲載し、Web上で報告する。

(2) 「身近な川や水辺の健康診断」については、全県の結果を1枚の河川地図上に表した概要版を作成印刷し、実施団体や学校等へ配布。

地域の環境保全と安心づくり 《課題解決》

1 美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン（別添募集チラシ参照）

(1) 実施期間 通年募集とする。

(2) 実施経費の支援 1グループ当たり一律3千円の支援を想定。

(3) イベントとのコラボレーション

スポGOMI大会や海岸漂着物問題普及啓発事業との併催を推進する。

(4) 最上川上流におけるクリーンアップ活動の実施

国土交通省山形河川国道事務所からの委託（オープンカウンター方式見積合わせにエントリーの上）で長井市、白鷹町、朝日町、寒河江市、河北町、天童市で実施予定。

- (5) クリーンアップ全国事務局や全国川ごみネットワーク主催の「全国水辺のごみ調査」に10月末までのデータを提供する。

2 散乱ごみの発生抑制対策の推進（別紙3参照）

- (1) 商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発の実施

（山形県循環型社会推進課委託事業含む）

会場を屋外にしてパネルや見本の展示を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策をとった実施内容を検討する。マルシェ等のイベントにも積極的に出展し、海洋へのゴミの流出削減を呼びかける。

- (2) 過年度作成した動画や啓発資料の活用

- (3) 山形県海岸漂着物問題推進協議会への参画

- ① 山形県海岸漂着物対策推進協議会の構成団体として、総会等に参加し提案等を行っていく。

- (4) 川ごみ団体との連携 全国川ごみネットワーク「川ごみサミット」への参加、「全国水辺のごみ調査」「クリーンアップキャンペーン」へのデータ提供。

3 広報啓発

- (1) 環境展のブースへの出展等の機会を活用し、ゴミ発生源対策や過去に作成した湧水利用の動画等を中心として、当フォーラムの活動の広報、環境保全の啓発に取り組む。

- (2) 令和3年度から引き続き映画「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」を上映する会事務局として活動する。上映に併せ、海岸漂着物標本、啓発資料展示、説明等を行う。

- (3) SNSを活用した啓発を進めるとともに、フォロワー数増加のための仕掛け等を検討する。

環境や文化を地域活性化に活かす《活用》

1 最上川夢の桜街道づくり

- (1) 全市町村及び継続団体に対し、桜の維持管理等の要望調査を行い、樹木医を派遣する。
(2) 桜守育成のための研修会「桜守養成講座」、桜を地域資源として活かすための研修会等を地域部会と連携して開催する。

緑の環境づくり推進事業（やまがた森林と緑の推進機構）助成金活用。

- (3) 県内の桜の名所や地域で愛されている桜を紹介する「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」巡回展示では、桜守の活動紹介もを行い、最上川・山形の桜の魅力を広く発信していく。市町村の協力により11か所で開催。

- (4) 「桜守研修会」桜を巡るツアー 7月8、9日鶴岡市 延期

2 桜や水辺の写真を活用した情報発信

- (1) これまでの写真コンテスト入賞作品の貸出しを希望者に対して随時行う。

- (2) 「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」

全市町村に展示箇所の照会を行い、令和5年3月下旬から市町村の協力を得て巡回展示する。桜の維持管理事業の紹介も兼ねた展示を行う。（前述）

3 湧水活用事業

「里の名水・やまがた百選」・「環境省選定」湧水を地域の環境資産として着目し、過年度

に製作したプロモーション動画やポストカード等を活用する。

4 地域おこしの紙芝居作成

- (1) 海岸漂着物紙芝居（令和3年度山形県視聴覚教材コンクール入賞）最上川にまつわる紙芝居（令和4年度山形県自作視聴覚教材コンクール入賞）の上演、貸出しの積極的な発信を行い、動画の活用を促進する。

最上川にまつわる紙芝居「少年と最上川」全国自作視聴覚教材コンクールに出品中。

- (2) 2019年度からの継続した取組みとして、村山・置賜地域部会の連携により、最上川にまつわる紙芝居製作を進める（最上川229ネットワーク（白鷹町）と連携）。
- (3) 紙芝居製作のための取材、企画を村山・置賜地域部会連携により進める（村山市）。

地域部会

◇置賜地域部会

- (1) 村山地域部会と連携した紙芝居づくり（地域おこしの紙芝居作成（2）（3）参照）
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (3) 「スポGOMI大会」への協力
- (4) 最上川上流におけるクリーンアップ活動への協力（最上川229ネットワーク、黒滝会（白鷹町）と連携）

◇村山地域部会

- (1) 「スポGOMI大会」への協力
- (2) 「やまがた環境展」出展の際のスタッフ協力
- (3) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (4) 置賜地域部会と連携した紙芝居づくり（地域おこしの紙芝居作成（2）（3）参照）

◇最上地域部会

- (1) 「もがみの湧水調査会」
山形県で実施している「里の名水山形百選」への応募の働きかけを行う。
- (2) 桜を守り育てる研修会開催、現地団体との連携により人材育成事業として金山町で開催予定
- (3) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力

◇庄内地域部会

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (2) 「スポGOMI大会」の共催
- (3) 「桜の育成維持管理研修会」現地団体と連携し人材育成事業として2か所で開催予定
- (4) 内川学関連事業の開催

全 体

1 役員会の設置

最上川フォーラムの法人移行を断念したことに伴い、課題の一つであった、会長個人に責任が集中する現状の運営体制を改め、会長を補佐し集团的に責任を分担して運営にあたる「役員会」を設置する。

役員会の構成や役割、規約上の位置づけ、開催時期などについては、今後整理する。

2 総会・運営委員会・部会

通常総会（7月24日）

運営委員会（6月13日、11月、3月）

清流・環境対策部会及び最上川文化・地域経済活性化部会の合同開催（11月、3月）

3 会員拡大の取組み

（1）個人会員の募集

引き続き、県内金融機関並びに県、市町村の協力を得て、会員募集キャンペーンを実施する。イベントや事業実施の際に、会員募集チラシを配布し、活動への理解と広報に努める。

（2）法人会員の募集等

企業経営者に対する入会勧誘及び寄付募集等について、役員が先頭に立って注力していく。その際、商工団体や法人団体等から助言や協力を得るものとする。

（3）効果的な勧誘PR方法等の検討

企業にとって納得感が得られるようなメリットの付与や顕彰、PR方法等を検討する。

4 運営基盤の強化

（1）「新しい活動指針（案）」（令和4年度通常総会）において提案した「運営基盤の強化に向けた取組みの検討」の内容については、法人移行の断念に伴い一旦白紙に戻し、会員拡大や支援（財源）獲得並びに収支改善、広報の強化など、法人移行によらずとも実施可能な取組みを洗い出し、できるところから実行していく。

（2）専門部会のあり方については、合同開催が続いていることや参加者の減少など、現状に対する課題認識は持ちつつ、改善方策を検討していく。

（3）地域部会の再構築については、部会長個人の頑張りに依存している現状や受け皿となり得る活動団体が存在しない地域もある事などを踏まえ、人材及び財源の両面から拡充に向け取り組むとともに、地域の実情に合わせた柔軟な対応を検討していく。

（4）企業に対する入会勧誘及び寄付募集等について、役員が先頭に立って注力していく。（再掲）

5 公益社団法人日本河川協会令和5年度河川功労者表彰

平成13年の設立以来長年にわたり、最上川を美しい県土づくり運動のシンボルに掲げ、川や水辺の健康診断・クリーンアップキャンペーン・スポGOMI大会など様々な活動を継続して行い、河川環境の保全や河川愛護意識の高揚に貢献したとして令和5年6月5日に表彰を受けた。

その他 委託事業・助成事業・連携事業など

1 委託事業・助成事業・連携事業など

- (1) 山形県委託事業
事業名：令和5年度川～海をつなぐ「美しい元気な山形づくり」業務
 - ・ スポ GOMI 大会開催、海岸漂着物問題普及啓発出張講座、商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発の実施
- (2) 最上川上流河川清掃活動（国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所）※応募中
 - ・ 最上川上流6か所での清掃活動
- (3) 緑の環境づくり推進事業（公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構）
 - ・ 桜の維持管理研修会の開催
- (5) 山形県海岸漂着物対策推進協議会への参加
 - ・ 6月14日 会議出席予定
- (6) 全国川ごみネットワークとの連携
 - ・ 11月18～19日 全国川ごみサミット開催予定
- (7) 「海と日本プロジェクト」との連携
 - ・ テレビュー山形（株） 海ゴミバスターズ in 山形実行委員会 Change for the blue 海岸漂着物問題啓発事業、スポGOMI 甲子園、スポGOMI ワールドカップなどの実施
- (8) 国、県、市町村や企業・団体とのコラボレーション事業など連携の強化
 - ・ 普及啓発活動の推進等
- (9) 運営体制整備事業費補助金（山形県）
 - ・ 事務局長設置費
- (10) 基金等への応募や寄付などの獲得に努め、その内容に応じた事業を展開する。
 - ・ 水環境保全助成事業（全国浄化槽団体連合会）※申請中
身近な川や水辺の健康診断の実施

※敬称略